

## 近藤みゆき 『王朝和歌研究の方法』

金 水 敏

近藤氏は、Ngram分析という手法を用いて『古今和歌集』や『源氏物語』所収和歌をはじめとする王朝和歌の分析を行い、ジェンダー表象がこれらの文献に明瞭に現れること、また『源氏物語』の特定の和歌ではそのジェンダー規範が乗り越えられていることが、登場人物の葛藤・煩悶の表現と解釈できることなど、めざましい結果をもたらした。いままで、ややもすれば印象批評に陥りがちであった文学研究の分野に統計的な手法を持ち込み、実証的にゆるぎない成果を示した点が本書の真骨頂であったが、近藤氏が開発した手法は一方で言語研究・文献学の分野にも衝撃を与えた。

従来、言語学研究・文献学の分野では、プレーンテキストや形態素分析を施したテキストを用いて検索、統計処理

等の手法をかけ、音韻、表記、文法、文体等の言語学的対象についての分析を行うということは60年代以前から行われてきた。しかしNgram分析で愚直にデータを吐き出して統計処理をするという方法は、かつては記憶媒体の要領やCPUの処理速度等の制約もあり、また無意味文字列を多く吐き出してしまうなど、扱いにくい面もあって必ずしも主流ではなかったのである。しかし、コンピュータの専門家でなくとも膨大な容量の記憶装置や高速なCPUがたやすく利用できるようになった今日、ようやく人文学の分野でもNgramを活用する環境が整ったと言える。そんな折、二〇〇〇年代初頭からいち早くその有用性を示したのが近藤みゆき氏であり、その後の一連の成果をまとめて見ることができなのが本書なのである。

ただ一方で、だれでも *Text* 分析が可能になったとは言え、それでもって有用な研究が頻出するかと言えば、そうではない。むしろ、近藤氏のように、資料や時代背景について知悉し、一方でジェンダー理論のような理論体系を自家薬籠中のものとした研究者によつて始めて、有用な宝物が膨大なテキストから掘り起こすこと（テキストマイニング）が可能になるのだと思う。テキストに基づいて研究を進められる、素質と基礎学力を持った若い研究者は一人でも多く本書につかれて、大いに刺激を受け、今まで凡庸な研究者が思いもなかつた成果を言語学や文献学にもたらしていただきたいと切に願うものである。

（A5版、四二二ページ、二〇一五年四月刊、笠間書院）

（きんすい さとし・大阪大学大学院教授）